

図書館だより



No.177

2010(平成22)年9月30日発行

編集・発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

Tel 024-535-3218 Fax 024-536-4787

<http://www.library.fks.ed.jp/>

今秋は、本とともに。

今年は、平成20年6月の衆参両院本会議において定められた「国民読書年」です。県立図書館ではこの秋、展示や講座等様々なイベントを開催します。この機会に、いろいろな本と出会ってみませんか？

展示

ふくしまの名著展

◆期間：10月8日(金)～1月5日(水) 〈休館日にご注意下さい〉◆

広い県土を有する福島県は、県内各地域において多様な歴史や風土、文化が生まれ、その土地に由来した出版物も多く誕生しました。江戸期に編纂された藩史や地誌、県内を題材とした文芸、県出身者が発表した著作等、先人たちが遺した幅広い分野の名著の世界を、どうぞご堪能下さい。

◆展示関連講演会「ふくしまの名著を語る」

日時：10月17日(日) 14:00～15:30

講師：菅野俊之氏(元福島県立図書館総括司書) 場所：当館・第一研修室

合わせて講演会もぜひご参加ください。

～県立図書館におけるこの秋の行事～ ※詳細は当館HPやチラシをご覧ください。

「ビトの杜を散歩～美術館・図書館にある樹木の楽しいおはなし～」

日時：10月31日(日) 14:00～15:30

場所：美術館・図書館敷地内 ※雨天時は第一研修室

定員：高校生以上20名程度(要申し込み・先着順)

内容：「ふくしま花案内人」木村吉孝氏を迎え、美術館・図書館の敷地内、名付けて「ビト(美図)の杜」にある樹木について、実物を見ながらお話を伺います。また、関連書の紹介をします。

「のりもののおはなしかい」

日時：10月16日(土) 14:00～15:00

場所：当館・第一研修室

定員：親子25組(要申し込み・先着順)

内容：のりものの絵本の読み聞かせと本の紹介をします。また、のりもの博士のおはなしもあります。

「悪質商法の手口と対策について」

日時：11月11日(木) 14:00～15:30

場所：当館・第一研修室

内容：悪質商法の手口や対策等について、県消費生活課の職員が分かりやすく解説します。予約可。

「蔵書検索端末機の使い方講座」

日時：10月21日、11月18日、12月16日(いずれも木曜日) 14:00～14:40 予約可

図書館では、その他にも様々な催しを行っています。

10～12月のロビー展示

10月8日(金)～11月3日(水)

「押し花合同作品展～この花に咲くや時空を越えて～」

11月5日(金)～12月1日(水)

「動物～マーブル・Style展～」

12月1日(金)～1月5日(水)

「福島信夫ライオンズクラブ 平和ポスターコンテスト」

図書館連携試行スタート!

9月17日より、福大図書館、福島医大図書館、県立図書館を窓口にして、下記サービスが可能となりました。

①それぞれの図書館の本を、無料で取り寄せて借りることができます。

②それぞれの図書館で借りた本を、どちらの窓口でも返却できます。

※詳細は当館HP、チラシ等でご覧ください。

新着案内

各分野の担当者が選んだ、お勧めの新着資料をご紹介します。

人文・自然

『漢語日暦』興膳 宏/著

岩波書店 2010.7 814.4/ㄗ107

1年間1日ずつ、日めくり形式のように季節感や年中行事・歴史的事件などを表す漢語を、その由来や意味と一緒に紹介しています。元日や彼岸など我々の生活に溶け込んでいるものも含め、古典等で表される漢語を四季の移ろいを感じながら味わってみてはいかがでしょうか。

『にっぽん自然再生紀行』鷲谷 いづみ/著

岩波書店 2010.4 519.81/ㄗ104

開発や外来種の侵入により、現在多くの湿地や森からその地域固有の生態系が損なわれつつあります。この危機に対し、本来あった生物多様性を取り戻そうと各地で様々な実践が行われるようになりました。

本書はその内容を各地方別に紹介しており、エコツアーのガイドブックとしても最適です。喜多方市での実践も掲載されています。

社会

『イケメン幕末史 (PHP新書)』小日向 えり/著

PHP研究所 2010.6 281.04/ㄗ106

幕末から日露戦争にかけて活躍した「イケメン志士」50人の経歴やエピソードを綴った人物伝。容姿だけではなく、生き様、逸話、小説やドラマからの印象などから「イケメン」を選出しています。男性が歴史上の偉人を「人生の指針」としているのに対し、女性はそれに加えて、好きな人物の性格や生き様、関係性など、人間模様を楽しむ傾向にあるということで、女性ならではの繊細な視点で描いたモテる幕末人物列伝。

『世界の野菜を旅する』玉村 豊男/著

講談社 2010.6 383.8/ㄗ106

暑い夏が続きましたが、いよいよ食欲の秋が到来です！ただ野菜を食すだけでなく、私たちの食文化について考えてみませんか？

本書では、野菜大好きな著者が実際に旅をした経験を踏まえながら、キャベツ・ジャガイモ・トウガラシ・ナス・サトイモ・砂糖などの身近な野菜の起源や歴史、調理の仕方、更には伝説やこぼれ話などについて紹介されています。また、それぞれの野菜の原産地、伝播してきた道が一目で分かる世界地図も一緒に掲載されています。

“トウガラシがインドに伝わる前のカレーは辛くなかった！”など、私たちが普段食べている野菜について新たな発見をすることができる1冊です。

雑誌・新聞

9月から始まった芸術雑誌のミニ展示にちなみ、当館所蔵の最新号のいくつかをご紹介します。

『芸術新潮』2010.9発行 新潮社 Z705/G1

○特集：瀬戸内海小さな島の大きな宝

瀬戸内国際芸術祭にちなみ、瀬戸内海に浮かぶ島々のうち、5つの島（淡路島、厳島等）について、歴史的建造物や自然美、現代アート等が紹介されています。

『美術手帖』2010.9発行 美術出版社 Z705/B1

○特集：妹島和世＋西沢立衛／SANAA

建築界のノーベル賞と称される「プリツカー賞」を今年受賞した妹島と西沢による建築ユニット SANAA。美術館等、彼らの代表作や最新作が紹介されています。

『レコード芸術』2010.9発行 音楽之友社 Z769/R2

○特集：新編 名曲名盤 300⑥ シューマンからグールドまで

恒例の特集「名曲名盤」の最終回。全6回の特集でクラシックの“名曲”300曲から、音楽評論家の投票により、各曲のベスト・アルバムが選ばれます。

『キネマ旬報』2010.9下旬発行 文藝春秋 Z778.3/K3

○特集：十三人の刺客

1963年に公開された江戸時代末期を舞台にした集団時代劇の傑作「十三人の刺客」のリメイク版。監督や脚本家、俳優の作品に対するインタビューを掲載。

地域

『板東俘虜収容所の全貌 所長松江豊壽のめざしたもの』田村 一郎/著

朔北社 2010.1 L289/M40/19

今年もベートーヴェン“第九”の演奏会が多数開催される季節になりました。この曲が日本で初めて全曲演奏されたのは1918(大正7)年6月、徳島県板東町(現・鳴門市)の板東俘虜収容所でのこととされています。演奏したのはドイツ兵捕虜。演奏会の他にも、収容所ではあらゆる文化的活動をすることが捕虜に許されていたといえます。

この収容所の所長を務めたのが、戊辰戦争において“敗者”の立場を経験した会津出身の松江豊壽。彼の目指したものと当時の時代背景、“模範収容所”といわれた板東俘虜収容所についてまとめた一冊です。

『幕末銃姫伝 京の風会津の花』藤本 ひとみ/著

中央公論新社 2010.5 L913.6/F5/1

女性を主人公にして、堅実な西洋史の小説を書いた藤本ひとみ氏の、初の日本を舞台にした小説です。

主人公は会津の山本八重。女でありながら力が強く、‘女性’としてあるべき姿をとれない彼女。凝り固まった武士達の考え方にも抗いながら、新しい風を求めて、鶴ヶ城での籠城において銃を手に取り戦いました。その姿は、ジャンヌ・ダルクとも対比されます。

薩長同盟、大政奉還、戊辰戦争のはじまり、そして会津戦争へ——武家社会が崩壊していく動乱の時代を描いている歴史小説です。